

協働のまちづくり協議会（第6回）議事概要

- 《日 時》 平成30年10月21日（日）10時00分～16時15分
《場 所》 女性センターゆうまつど4階ホール
《出席者》 犬塚 裕雅 会長、文入 加代子 委員、牧野 昌子 委員、杉浦 利彦 委員、
江藤 政継 委員、野村 圭子 委員、門 良英 委員
《傍聴者》 3名

1 開会

2 協働のまちづくり協議会委員紹介

3 協働のまちづくり協議会 会長挨拶

4 議 題

(1) 平成31年度協働事業プレゼンテーション

各団体及び担当課が、パワーポイント等により、5分間のプレゼンテーションを行った。

●質疑応答

① 公共サイン改善事業

（団体名 公共サイン研究会）

（担当課 都市計画課）

委 員 試みとしては良いことで、ぜひ成果を上げていただきたいと思います。

この事業は、研究の報告発表が成果ではないという考えは当然お持ちだと思います。公共サインの改善事業ですから、改善しないとやったことにならない。

そして市の側はどういう協力をしているのか。予算は上げているのか。政策に挙げているのか。

それから、今現在、どういったところを目標にしているのか。とりあえずの目標を教えてください。松戸駅周辺でもいいし、新松戸駅周辺でもいいし、最低この2か所かと思います。この辺の公共サインが、オリンピックに間に合うのかどうか。どういうスケジュール感で動いているのか聞きたいです。

担 当 課 公共サインの改善そのものに対して政策的な予算立てを計画しているかどうかというところですが、今現在は、予算立ての全体的な計画は持ち合わせておりません。ただし、庁内で景観の調整会議という関係課の組織を持ち合わせているのですが、そちらで1年目の成果を共有し、現在各々で予算立てをしてしまってい

るところを、足並みをそろえて予算立てをしていただけるように働きかけていくというかたちで、都市計画課の方が役割を担っていきたいと考えています。

松戸駅前、新松戸駅前について、オリンピックまでに公共サインの改善が実施できるかというところですが、特に松戸駅前につきましては、松戸駅周辺に関するまちづくり基本構想などのスケジュールがございまして、オリンピックのスケジュールとまちづくり基本構想のスケジュールのすり合わせや前後関係もございまして、正直今のところオリンピックに合わせるというよりは、松戸駅周辺まちづくり基本構想のスケジュールに合わせるかたちになるろうかと思われ

団 体 とりあえずの目標はということですが、今都市計画課の方からもお答えがあった通り、この事業の期間内で公共サインを今すぐに改善に結びつけるというのはなかなか難しいなということ、助成事業から活動を継続してきて思っているところ。私たちの目標としては、公共サインについて、今のままではいけないよね、という意識を醸成していこうという活動にシフトしてきています。特に、例で挙げていただいた松戸エリアについては、今年度もワークショップの対象地に選定しています。そこで、坂川献灯祭りの実行委員会の方々との協働を進めています。サインそのものの改善というのは難しいですが、松戸宿周辺の景観の改善という大きいところで一緒に取り組ませていただいているので、その辺に関しては、公共サインというよりも、もう少し気軽に少しずつ改善というところに我々もタッチしていけるかなと思います。

委 員 3点質問です。1つ目が、この活動は平成28、29年度と行ってきて、主に調査でした。その結果をまとめたものはデータとしてありますが、今回の三か年計画のうち2年間は調査ですね。前の調査が活かされるのか、あるいは今回は全く違った視点での調査なのか。前回とのかかわりを教えてください。

2つ目が、三か年計画の中で、最後の年に作成する成果物は、こういったものを想定されているのか。自分たちで調査した結果、こういうサインがいいのではないかという具体的な提案をされるのか。あるいは、新しいサインを決めるうえでの基礎となるような資料的なものに終わるのか。こういったものを目指しているのか教えてください。私としては、成果物としては、具体的なサインが欲しいです。

3つ目が、事業の中に定期便の配布とありますが、公共サイン定期分はどれぐらいの数を配布していくのか、わかれば教えてください。

団 体 まず1点目、平成28、29年度の助成事業の時にやっていた調査内容と、今年度以降の協働事業で行っていく調査の関わりについては、平成28、29年度は、我々が活動を始めたばかりということもあり、松戸全体の公共サインの現状をつかむというところがメインでした。フィールドワークで、松戸の観光

マップで作成しているまち歩きルートを歩いて、現状確認するというのが主なものでした。それに対して、協働事業になってからの調査は、現状把握はできている状態から始まり、市民の方々がそれに対してどう思っているか、あるいは景観に関して興味を持っている方々がどう捉えているか。平成28、29年度はまち歩きをや報告会に来ていただいた方にしか情報発信できていなかったのですが、公共サイン定期便を始めたことで、全く関わりのない方たちにも情報発信していく形で、平成28、29の現状把握から、発信型というかたちで発展していると位置付けています。

2つ目の成果物のイメージですが、まず、市民活動団体であるということを活かして、都市計画課の方々が市としてこういうガイドラインを作成するので意見をくださいと言ったときに、なかなか出てこないような、多様な意見を我々が集めるということを目指していて、それは都市計画課からも、市民活動として是非そういうことをお願いしたいと、共通認識として持っています。なので、それを踏まえた成果物、基礎資料というのを、市民から松戸市への提言のようなかたちでまとめていきたいと考えています。

3つ目の、定期便はどういう方々へ何枚くらいというご質問については、今年の8月に定期便第1号を発行しました。その時は、市内の公共施設40カ所に配架をしていただき、場所によって1枚だけのところもあれば10枚くらいとか、そういうかたちで配架をお願いしました。また、普段の活動から連携している団体の方々へ配布しています。

② 災害時要配慮者支援事業

(団体名 小金原地区会(小金原連合町会)防災部)

(担当課 危機管理課)

委員 自主防災組織からここまで裾野を広げられて、松戸市内のモデル事業として私達も大変期待しています。

担当課に聞きたいのですが、この小金原モデルを市内の他の地域へどのように普及するのか、もし計画とかをお持ちであれば教えてください。

またもう一つは、今回は福祉の面で、障害者、高齢者の担当課のところでも、庁内の調整が必要ということですので、庁内の現状と、どのように進めようとしているのかということをお伺いしたいです。

担当課 小金原のモデルは、去年まで3年間やってきました。そこで出来上がったものとして、小金原要配慮者支援マニュアルというものがあります。1週間以内を想定して捉えた要配慮者の支援をどのように行うかという内容が書かれています。今後、活動していく中で、高齢者や障害をお持ちの方に対する支援や、来年度以降は乳幼児等の配慮が必要な方々に対して、どういったことをやってい

けばいいのかというご意見をいただいて、このマニュアルを強化して、それを他の地域で啓発する際に紹介して、地域で助け合うことができる体制づくりを進めていければと思っています。こちらからもどんどん情報発信して、他の地域でもそういった組織を作って、いざ災害時に地域で助け合える体制を作ることが目標です。

庁内連携について、障害者や高齢者の部局は、災害福祉と密接な関係がありますが、松戸市ではこれまで大きな災害の被害がなく、3.11以降やっとその気持ちが盛り上がってきたところです。この契機を捉えて、地域の方々と各部局を集めて、小金原の要配慮者支援会議を開催する予定です。庁内間の連携を強めて、地域の方々のご意見をいただき、災害福祉を一緒に考えていこうと進めているところです。

委員 防災に関しては私もいろいろとやっていますが、基本的には、今仰ったような理屈は通じないです。災害発生後の3日間が大事です。

いろいろとご説明がありましたが、避難訓練はどういうかたちで、年何回行っているのでしょうか。災害発生後3日間は、行政は動けないです。皆さんご存知のように東北地震でも実際行政が機能しなかった。熊本地震を見ても、ご存知のように実際機能してない。そういう動きなので、まず皆さんのような自主防災の組織がどういう訓練をしているのかお聞きしたいです。

団体 今回基本的なテーマが要配慮者支援に絞っておりますので、防災訓練等はテーマから外れるのですが、我々の活動は3.11から始まりました。その大きな目的の1つが、避難所の運営です。運営を地域でやってほしいという行政の要望もあって、それにどう応えていくかということで、避難所ごとに小委員会という委員会を作りました。各避難所に避難する2、3つの町会で小委員会を作って、その委員会が、普段は防災訓練をやったり、地域に啓蒙活動をやったりして、災害が起きた場合には、小委員会が運営委員会に変わるというシステムです。訓練等については、我々防災部というより、避難所ごとの小委員会が中心になって、どんな訓練をやっていくかということをやっていきます。そういう体制ができていますので、そこは役割分担で今後やっていきたいと思います。要配慮者支援のように全体に関わる問題は、地域住民だけでは対応が難しく、専門的な知識を持った方々、地域の施設の方々の支援と協力が無ければできないので、そういった点については連合町会防災部が全体を踏まえて動きを取っていくかたちでいま活動を始めたところです。

普段どんな訓練をやっているかということについては、特に発災から3日間が大事だということで、確かにその通りで、まず3日間は極力自分で食料も水も確保するよう呼びかけをしています。

今回、9月8日に連合町会としての防災訓練を行いました。その際、各18町

会に、訓練の日の朝に、各町会で安否確認を行っていただきました。この目的は、いざ災害が発生したときに、どこまで大丈夫なのか。例えば3分の1が無事だった場合に、その人たちに周りをもう一回チェックしてくださいとか、その辺が発生後3日間まず自力でどう対応するか、この辺を少しずつ呼びかけているところです。

委員 この事業は前々から本当に素晴らしい取り組みだと推薦しています。ただ、町会自治会等にこういう事例がなかなか伝わっていないのが現状です。町会自治会では防災訓練は必ずと言ってもいいほどやっています。ですが、実際自分の地域でもそうですし、他の地域の様子も聞いていますが、災害と福祉を結びつけているところはほとんどないです。ですので、これを結び付けるのはなかなか勇気があることですし、非常に用意周到な準備も必要です。とにかく町会自治会で、まずはそういう視点を深めてということが一番大事です。ということは一番の基本として、この小金原地区の活動をより細かく市内全地区に広めていただきたいです。これはやはり行政の仕事だと思います。それとまた、小金原地区のご活動も同時に、ご一緒してこの地区を回るとか、そういう方向性について具体的に計画を立てていただければ嬉しいです。

委員 障害のある方や高齢者、持病のある方などいらっしゃると思いますが、避難所での医療についてはどのようにお考えでしょうか。

担当課 医療については協働事業とは別で行ってしまして、災害時の医療については発災から3日以内は、病院を中心に病院前救護所を立ち上げて、トリアージという選別の業務を行います。けがした人はトリアージタグを貼って、重傷な方は病院内へ入っていただきます。避難所については、災害発生3日以降に、各病院が巡回医療という形で回る計画を立てています医師、保健師、看護師を中心にチームを結成して避難所を巡回して、健康相談や治療をする流れになっています。

③ 子どもたちがつくる青少年会館居場所事業

(団体名 だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会)

(担当課 生涯学習推進課 青少年会館)

委員 イベントが無い日に青少年会館に遊びに来る子供は何人くらいいますか。

また、大事なことは中高生などの担い手育成だと思います。中高生は勉強に忙しいと思うのですが、それでも参加する方はいますので、そういう方がどういう意識を持って参加しているのか、もし感じるものがあれば教えてください。

担当課 日常的な青少年会館の利用状況ですが、平日ですと放課後だいたい2、30名くらいが遊びに来ています。土日は50名程、夏休み期間は100名近くがご利用いただいていることもあります。

- 団 体 中高生の参加で、勉強等が忙しいとのご意見をいただきましたが、感覚的には、勉強のために来られないという子もいますが、部活との兼ね合いでなかなか定期的に参加できない子が多いというのが実感としてあります。一方で部活も皆が毎日忙しいわけではないですし、最近では中学生の部活も、先生の労働の観点から今後減少していくということがわかっていますので、そういう子たちのニーズを拾っていきたいと考えています。
- 今年度脱出ゲームで関わってくれた中高生は、中学生だと、青少年会館の講座に来ていた子が繋がっています。高校生は夏休みにあるまつど市民活動サポートセンターのレッツ体験をきっかけに来た方もいます。そういった多様な入口を設けることで、必要としている中高生に届けていきたいと考えています。
- 委 員 今後の展望のところでお伺いします。4年目以降について、社会教育団体という側面での発展をとか、担当課と協議をしてとかっていうことが書いてありますが、4年目以降について何かあれば、団体でも市の方からでもお願いします。
- 団 体 社会教育団体の話で、今回スポーツやアートテーマで関わっていただいている団体さんも、普段青少年会館を利用しているのですが、そういった団体にマッチングしていただき、今回の事業にご協力いただいています。普段こちらの団体は社会教育団体として青少年会館を使っていますが、普段のメンバーとは違った人たちと活動して、活動が子どもたちへも広がっていくということで、内向きな活動から外向きな活動へと一歩踏み出していただけているかなと思います。団体が一緒にプログラムに取り組む中で、参加したおじいちゃんが嬉しそうな表情をしていたり、そういう側面から感じています。
- 3年が終わった後は、団体としてはこの活動は必要だと思っているので青少年会館と協議していきたいです。
- 担 当 課 青少年会館としても、もう根付きつつある事業ですので、継続の方向で考えています。特に、社会教育関係団体については、今年度、流通経済大学と協力していますので、今後とも大学や地域をさらに巻き込んで、子供向けの事業を展開していけたらと思っています。
- 委 員 新松戸の青少年会館だけでやっている様な印象がありますが、水平展開というのは全然考えていないのでしょうか。他の地域についてはどう考えているか、何か呼びかけがあるのか教えてください。
- 担 当 課 おっしゃる通り、今現在は新松戸の青少年会館を拠点として行っていますが、協働事業ではないですが、青少年会館の樋ノ口分館があります。また、市内には児童館やこども館が4か所あります。他にも移動児童館を開催したりしていますが、今年度から、そういったところで青少年会館が講座をやっています。それを基に、今回の居場所事業も繋がっていければと考えています。
- また担い手の育成で、中高生等参加してくれた子たちも、青少年会館だけでな

- くいろいろなところで活動していけるよう、懸け橋となれればと考えています。
- 団 体 学生は近隣の小学校からの参加が多いですが、高校生以上は、馬橋高校や小金や流通経済大学の話もありましたが市外の学生からも参加があります。ですので、新松戸地域だけでなく巻き込みはできているかなというのは実感としてあります。
- 委 員 この2年間で子どもの利用者が何割程度増えているのか。また育成スタッフがどれくらい増えたのか教えてください。
- 担 当 課 今手元の数字としてはわからないのですが、協働でイベントをやっている夏休みは、倍以上は来ていると思います。また、今までは新松戸地域の子供ばかりだったのですが、プログラム開催日は市内各地からいらっしゃっているので、青少年会館の認知度の向上にも役立っていると思います。
- 団 体 担い手の増え方としては、中学3年生や高校3年生は、受験など、どうしてもステージの変化があるので、常に同じ子たちが継続して来られているかというところが難しいです。とはいえ2、3年後に繋がっているとは思っています。そういったところができるればよいかなと思います。
- また我々が呼び掛けられる対象としては10とか15人とかっていうペースで、呼びかけ対象が増えているかなと思います。
- 脱出ゲームは中高生が企画したのですが、当初の予定を超えた100人くらいの小学生が来ました。その部分の参加者だけでも結構増えたなという実感があります。

《昼休憩》

(2) 平成31年度市民活動助成事業プレゼンテーション（スタート助成）

各団体が、パワーポイント等により、5分間のプレゼンテーションを行なった。

●質疑応答

音楽活動による地域交流事業

(団体名 Ensemble Ponte)

- 委 員 メンバーが5名ということで、メンバー募集を積極的にしているのか、それとも5名で丁度良いというところなのか、いかがでしょうか。
- また、歌声コンサートを市民センターで行うとありますが、皆さんは楽器演奏がメインのようですが、歌声というのはどういった部分でしょうか。
- 団 体 メンバーについて、特別なイベントの際には、手伝いをお願いして演奏メンバーを増やしています。
- 歌声コンサートは、私たちの生演奏でお客さんに歌ってもらうというやり方で、

一緒になって参加するものです。

演奏は5名ですが、参加してくれるお客さんの人数を増やし、参加者同士のコミュニケーションを図っていきたいと思っています。メンバーを増やすことは考えていません。

- 委員 目標の平均参加人数70名の根拠は何ですか。
広報活動で、チラシ600枚とありますが、チラシの効果の予想としてはいかがでしょうか。どこをどうターゲットにするのでしょうか。
- 団体 70名というのは、現在50名前後の参加がありますので、今回助成金で広報を広げて、70名を目標としています。
チラシについては、600枚のうち100枚は個人的にお知らせを希望する方へ、残りの500枚はポスティングを考えています。現在は、開催する会場付近のポスティングを行っています。また、地域新聞や広報まつどを活用したりもしています。
- 委員 自分たちが押しかけていくという活動は考えているが、高齢者を外に連れ出す工夫はあるのでしょうか。
- 団体 高齢者が来やすくなる、興味を持ってもらう工夫として、曲目を年齢層に合わせたり、歌詞カードを配布したりしています。配布した歌詞カードを大事にとっておいていると仰って下さる方もいます。1人来るとその方の口コミでご近所の方を連れてきてくれることがあります。福祉施設での演奏は、市内ではまだやっていませんが、埼玉県での活動では、施設に訪問しています。今後松戸でも行っていきたいと思います。
- 委員 自立した活動を既に行っていると思いますが、助成金を利用しようとした動機は何でしょうか。
- 団体 現在年7回コンサートを行っていますが、今以上に参加者を増やしたいと思い、広報活動費を得るために申請しました。今はなるべくお金をかけないように活動しているので、今後の広報活動に使いたいと思っています。

② 「甚左衛門の森」保全育成事業

(団体名 松戸里やま応援団「甚左衛門の森の会」)

- 委員 伐採した木はかなりの量になるかと思いますが、有効利用の算段はありますか。
- 団体 今は森の中で処理するという事しか考えていません。
- 委員 この森は誰でも自由に入れるのですか。
- 団体 入ろうと思えば入れますが、地主さんの持ち物ですので、フェンスがあります。
- 委員 将来的に誰でも入れるようにならないのでしょうか。
- 団体 そうなれば良いのですが、地主さんとの交渉でそこまで話がいきません。以前敷地内にブルーシートが張ってあって、誰かが住んでいたということもあ

ったようです。地主さんは、誰でも入れるような形は望んでいないのではないかと思います。

委員 ぜひ頑張ってくださいと思います。他の森と横の連携を取って、自己の状況などを共有して、子どもが安全に遊べるように配慮してほしいです。

団体 月1回情報交換会はしています。

委員 将来的な地主さんの意向はいかがでしょうか。わかれば教えてください。

団体 地主の方は長く続いている梨農家の方です。息子さんに梨農家を続けさせる予定だそうなので、宅地になる見込みはまだ無いです。森としての寿命は長いのではないかと思います。あとは森を公開するか否かというところですが、私たちが立ち会って、定期的に皆さんに公開できる森にしたいと思っています。

会長 普段は全員で活動をしているというのは、10人全員でしょうか。

団体 そうです。

会長 オープンフォレストは今年度は何人参加されたのでしょうか。

団体 大人が17名、子どもが8名の合計25名の参加がありました。市外からも参加がありました。

委員 市外でもこういった活動はあるかと思いますが、繋がりはありますか。

団体 他の行政との繋がりはあります。今度、立ち上がったばかりの森を見たいという事で、他の行政が我々の森に見学に来る予定もあります。

委員 害獣被害というものはいかがですか。

団体 今見あたる動物は猫だけです。

③ 小学生の夢を育む放課後改革/情報サポート事業

(団体名 MIRAI のしるし)

委員 来年1年間でかなりたくさんの方の事をしようとしているように感じます。

アンケートでいうとどのくらいの子や親を対象と考えているのでしょうか。

また、ポータルサイトの立ち上げは、予算には反映されていませんが、1年間でできるのでしょうか。

団体 今年の夏に、ワークショップを2回行いました。仲間たちも働きながらですが、子どもたちが時間を持て余している夏休みや冬休みの長期休暇のときに、ワークショップを行おうと考えています。

アンケートは、今もワークショップの後に行っていますので、引き続き行っていく予定です。ポータルサイト上でもウェブ上アンケートを実施して、広い地域の方に反応していただければと考えています。

今年の4月の桜まつりでブースを出していたのですが、その際、子どもたちを対象に投票型アンケートをやりました。67名くらいの小中学生に答えをもらいました。

- 委員 この事業は、情報サポートがメインですが、生きた情報をどのように集めるのでしょうか。
また、ワークショップの位置づけや内容はどのようなものでしょうか。
- 団体 情報量について、将来的には市内45の小学校ごとのページを作って、学区エリアで、児童館や子ども食堂などの居場所や、習い事の情報などを集めて載せたりしたいと考えています。意見が偏るのもよくないので口コミとかも考えていますが、来年度はそこまでは難しいかもしれません。
1年目は、我々の住んでいる地域2、3校分のページを作りたいと思っています。
ワークショップの位置づけについては、子どもに希望を持った生活をしてほしいので、そのヒントを与えて、毎日楽しく生きてもらおうと考えています。
他の団体もやり方に悩んでいますので、お互いにノウハウを共有できればと思います。
ワークショップの中身は、お仕事体験のようなものです。今年、2日間に分けてやったりしました。商品開発体験などをしました。
- 会長 ワークショップは何人くらいを想定していますか。
また、ポータルサイトのアクセス件数や滞在時間はどのくらいを想定していますか。ボリューム感を教えてください。
- 団体 ワークショップは20人を最大で想定していましたが、6名に終わりました。
来年は10名規模を2回想定しています。
サイトのアクセスは、市内の小学生が2万人いるので、その半分以下くらいかなと思っています。1校分のページで200～300人の世帯かなと思っています。滞在時間はやってみないとわからないかなと思います。

《昼休憩》

④ 松戸市民の輪を繋ぐ事業

(団体名 公益社団法人 松戸青年会議所)

- 委員 アンケートを取った後はどうするのでしょうか。
- 団体 データの集計をして、ホームページ等で発表しようと考えています。
- 委員 マラソンを通じて防災意識の醸成をということですが、アンケートの項目はどのようにお考えですか。
- 団体 まだ検討中です。
- 委員 どうしたら防災意識を醸成できるかということを、もっと議論が必要です。
その後の展開につながるアンケートを取っていただきたいと思います。
- 委員 炊き出しと防災アンケートに繋がるところはあるのでしょうか。

- 団 体 2013年から七草マラソンにて味噌汁の配布を行ってきました。
接点はありません。今までのことを継続していきながら、防災に繋げていきたいと考えています。
- 委 員 これまでに防災についてどのような活動をされてきましたか。
- 団 体 松戸駅西口デッキで防災イベントを行いました。大学の教授に講演をしてもらったり、AEDの使用体験を行ったり、ハンバーグやお菓子など、日常的に食べられる防災食を試食してもらい、防災食のグランプリを行ったりしました。
- 委 員 予算書によると、味噌汁で9万円使用していますが、これは今まで団体としてやってきたことなので、新たな取組みがアンケートだけでは弱いのではないのでしょうか。
- 団 体 会費の中で味噌汁の配布をやってきましたが、予算が厳しくなっているので今回申請しました。
- 委 員 マラソン後の、参加された市民との接点がありますか。
- 団 体 特にありません。質問が来るくらいです。

⑤ マジック演技を通し高齢者に元気をあたえる事業

(団体名 和気あいあいマジッククラブ会)

- 委 員 今までの活動実践はどのようなものでしょうか。今後は老人施設での活動が増えるということでしょうか。昨年、年間8回行っていますが、来年、10回だと参加人数は500人くらいにはなるのではないのでしょうか。
- 団 体 実績としては、町会の会館や市民センター、老人ホーム、デイサービスで行ってきました。
人数は、多いところ少ないところ平均しても1回で4、50人の参加ですので、10回で400人としております。
- 委 員 予算に謝金はありませんがもらったりはしないのでしょうか。
- 団 体 老人ホームへ訪問する際は、交通費も出ません。回数が増えてくると我々の負担も大変になるので、今後考えていきたいと思えます。
- 委 員 子どもにも楽しんでもらうとありますが、どのようなことをされるのでしょうか。
- 団 体 今後やりたいと思っています。そのためにはまず子供向けの演目を考える必要があり、現在その練習中です。学童や保育園へ訪問したいと考えています。
- 委 員 マイクより衣装を優先しているようですがマイクは大丈夫なのでしょうか。
- 団 体 マイクは、今年みずほ財団の補助金をもらって用意できましたので大丈夫です。

⑥ 子育てが楽しくなる地域コミュニティ事業

(団体名 なないろのもり)

- 会長 事業収入のところ、出展料をもらうという目論見ですが、これが得られる裏付けはありますか。
- 団体 現在は出展料によって運営費を賄っています。毎回、チラシを3,000枚、近隣の幼稚園や小学校に配っています。この3年間で地域の認知度が徐々に上がってきており、出展者も増えてきているので、このまま続ければこの予算は何とかなるのではないかと考えています。
- 委員 次年度以降、よりパワーアップすると見受けられますが、予算的に大変なようですが、見通しはいかがでしょうか。
- 団体 助成金をいただいて、事業を安定させたいと考えています。
3年間で徐々に出展者や来場者が増えてきているので、助成を受けてもう少し広報を広げていければもっと目標に近づくのではないかと考えています。
- 委員 地域の幼稚園や小学校の協力の具体的な内容は何かでしょうか。
- 団体 小学校にチラシを配布してもらっています。本来、学校の全生徒にチラシを配布するのは厳しいことですが、本企画の出展者に保護者が多いということもあって、校長、教頭先生の協力により矢切、柿の木台、大橋、国府台の小学校で全生徒に配ってもらっています。助成をいただければもっと多くの小学校や幼稚園で好意的に受け入れてもらえるのではないかと考えています。
- 会長 物販の取り扱いについては、どういう位置づけでやっているのでしょうか。
- 団体 出展者と来場者の間で直接やってもらっています。食品だけは許可のある方というふうにしていますが、あとは皆さん手づくりの物を販売したり、ワークショップを行ったりしています。

⑦ みんなで楽しもう秋のお出かけ事業

(団体名 認定特定非営利活動法人たすけあいの会ふれあいネットまつど)

- 委員 今までのお出かけ先はどのようなところでしたか。また、来年度はどこへ行こうとしていますか。
- 団体 最近ですと、柴又と水元公園に行ったバスツアーを行いました。その他に、清水公園やアンデルセン公園などに行っております。
- 委員 会員が435人いるようですが、その435人がこの団体をやっているということでしょうか。バスツアーの参加は、その中から25人で、市民ボランティアが15人くらい集まるということでしょうか。障害者はどうするのでしょうか。
また、交流会はどういった内容でしょうか。
- 団体 構成員の数ですが、利用する側も協力する側も会員になっていただいています。比率で言いますと、利用会員が230名程、協力者が残り150名程、あと賛助会員という構成です。障害者の方にも参加していただいています。

委員 障害者はどういう位置づけですか。対象者はどのくらいですか。
団体 前回でいうと25%くらいです。
会長 交流会についてはどうですか。
団体 交流会は、貸切で食事会を行ったり、グループでバーベキューをしたりしました。また、お楽しみ会などをやったり、観光を兼ねてグループで散策したりしています。
委員 今までにも団体の事業の一部としてこの活動をされてきていますが、今回この部分だけ切り出して助成金を申請したのはなぜですか。
団体 今まで会員のみを対象として行っていたが、会員だけでなく一般市民の方がボランティアするきっかけづくりになれば良いと考えて申請しました。
会長 旅行法の違反にならないようにしますとありますが、どういうことなのかもう少し補足で説明していただけますか。
団体 我々は旅行会社ではないので、旅行料金はいただけません。
会長 この提案が旅行法に抵触しないことは確認済みですか。
団体 資料代程度はいただいてもよいということは確認しています。

⑧ 野良猫捕獲と不妊手術の悩み解消！地域猫スタート相談会事業

(団体名 松戸地域猫スタートサポート)

委員 2018年9月1日設立となっておりますが、お話を聞くと以前から活動されているようですがどうなのでしょう。資金はどのようにされていたのでしょうか。
団体 各自でばらばらに、自腹で活動していました。
委員 では長くやってきた実績があるわけですね。
団体 はい。
委員 この事業は、地域猫活動をするのではなく、サポートをする立場になるのでしょうか。
団体 そうです。地域猫活動を普及させるという事を考えています。
委員 こういった活動は、地道に長く活動しないと効果が出にくいと思いますが、助成金はずっと出るわけではありません。活動を継続するための構想はありますか。
団体 現時点ではそこまでの見通しが無いですが、地域猫活動というのはできる人が少ないので、まずこの1年はできる人を増やすことを考えています。そしてその方たちが私たちに代わって、また地域猫活動を普及させてくれると考えています。
委員 お知らせをしていくのに、郵便でとなっておりますが、広報はどのようにするのでしょうか。
団体 自治会の方に貼ってもらったり、ポスティングしたり、環境保全課に頼んでみ

- たり、これまでの活動の中で希望している人に郵便でお知らせする予定です。
- 会長 相談会の中から何人活動者になられると考えていますか。
また、外部の有識者は具体的にはどのような人でしょうか。
- 団体 どのくらいの仲間を増やすかは正直見えない部分がありますが、相談者の半分くらいと考えています。
外部講師は、獣医師の方や、地域猫活動を推進してきた自治体のOB方で知り合いがいるので、その方を考えています。
- 会長 地域猫活動をされる場合、町会、行政との連携が必要です。そういった連携を作る道筋、活動を始めた人の活動全体を支える環境づくりはどのようにされる予定ですか。
- 団体 毎回必ず環境保全課の方をお呼びしたいなとは思っています。

⑨ プレママ教室事業

(団体名 ぶぶぶママ大学)

- 委員 元気ママも必要だが パパはどうなっているのでしょうか。
- 団体 行政が行っている母親学級に、プレパパ教室が入っているので、それと重ならないようにしました。ガスケアアプローチは土日開催して、ご夫婦でも参加していただき、夫婦で一緒にケアできるようなものを考えています。
- 委員 参加者への情報はどのようにするのですか。
また、報償費の支払先はどのようなところですか。
- 団体 報償費については、神社の宮司さんに依頼をします。やってもよいというお返事はいただいています。あとは、助産師さんに愛着形成や母乳育児についてお話していただく予定です。メンバーの中に理学療法士がいたり、私も保育士だったりしますが、そこは報償費は無しで行います。
情報提供については、児童館や親子DE広場や産婦人科、町会掲示板への掲示を働きかけていきたいと考えています。
- 会長 報償費が15,000円で6人となっていますが、教室が3地区分ですよ。3地区分で一人15,000円という理解でよろしいでしょうか。
- 団体 3地区で4講座同じ内容で行います。2人が3回、3地区各1回ずつやってもらいます。
- 会長 3会場で有償講師が述べ6人という勘定でよろしいですか。
- 団体 そうです。
- 会長 1地区で全4回の講座ですが、参加者は全部通しての参加が必須ですか。
- 団体 通しての参加を推奨しますが、事情があればその回だけでも良いとします。
- 委員 ホームページの作成とありますが、松戸市で、「まつどあ」なども子ども関係のホームページをタイアップしてやっているので、そういうところとの連携も考えて

- いるのか、それとも独自にやるのかいかがでしょうか。
- 団体 連携もいずれはしたいと考えていますが、まずは団体を知っていただくために団体としてホームページを作成したいと考えています。その後、回を重ねることにいろんな団体の方と連携していきたいと考えています。
- 委員 市内3カ所場所を設定していますが、どのような理由で選ばれたのでしょうか。
- 団体 まつど市民活動サポートセンターへ相談したところ、子どもの多い地区ということでこの3地区にしました。
- 私自身ベビーシッターの依頼を受けたりしているのですが、その依頼が多いのも実際この地区です。

⑩ 学習支援と食の提供による子どもの居場所作り事業

(団体名 まんぷく小屋)

- 委員 子どもが今は6人来ていらっしゃるということですが、今後もっと増やしたいのかどうか。
- また、参加費についてはどう考えているのか教えてください。
- 団体 昨年は中学生12人、小学生3人が来ていて、お金を取っていませんでした。できれば無料でやりたいと思っています。発達障害の子たちは、毎回は来られない子もいるので、来られる子だけお金を取るのもなという思いです。
- 一緒に勉強をすることがメインになれば、1回100円とかとってもいいのかなとは思いますが、今のところは無料でやっていきたいと思っています。
- 委員 活動のお知らせはどのようにしているのでしょうか。
- 団体 去年のチラシには、小さく「学校に行きづらい子もいっしょに勉強しませんか」ということを入れました。すると、発達障害の方から7件の問い合わせがありました。
- また、チラシは、常盤平第一小学校、常盤平第三小学校の学童、常盤平第二小学校、常盤平保育園に設置してもらいました。今後も定期的にチラシをまけるように助成金を使わせていただきたいと思います。
- 委員 食事の用意は人数の把握が大変だと思いますが、当日の申し込みでもOKなのでしょうか。
- 団体 1回20名を想定しています。毎回だいたい来られる子が4、5人なので、スタッフも入れて残りは持ち帰ったりしています。
- 委員 学習指導は、わからない子たちに教えるのは難しいと思いますが、なにか工夫はしているのでしょうか。
- 団体 去年は5人、経験者の先生方に手伝ってもらっていました。
- ですが、1年間勉強してきた子たちが、前期の高校受験で8人落ちてしまい、やり方が違うなと思いました。教えたのは、適応教室や東京シューレ(フリース

クール)での経験があり、慣れた先生方でしたが、学びをシャットアウトしてる子たちというのは、学ぶ体制を取られたところで頭に入っていないのだなと感じました。落ちてから2週間、スタッフも一緒になって毎晩勉強をしたのですが、その子たちがやらなきゃ、となった時に、後期の試験で受かることができました。

勉強は楽しい、わからないことは聞いていいという場を地域で作りたいと思っています。

委員 スケジュールにある、夏休みの職業紹介などのイベントとはどのようなものでしょうか。

団体 昨年の夏休みは、色々な職業の方を呼ぶということで、NHKのプロデューサーや吉本の芸人さん、カメラマンの方や保険屋さんを呼びました。そういう仕事につくまでのプロセスなどを知ってもらいました。

委員 重い感じがしますので、抱え込まず、他の団体と連携して、勉強し合った方が良いのではないのでしょうか。

団体 小学校の学童や保健師さんに相談に乗ってもらったりしています。他の団体とも連携をして、フリースクールのようなゆっくりとした流れを作ってあげたいと思います。

⑪ 音楽活動による街の活性化事業

(団体名 松戸音楽活動同好会)

委員 外部講師はどういう方なのでしょう。

また、新聞折り込みは、どのイベントの分ですか。

団体 講師は、大きいイベントでは音楽講師が必要になるので、3回程考えています。チラシも、大きいイベント3回分で考えていますが、矢切地区で1回3,000円くらいでできます。矢切地区を優先的に考えています。

委員 大きいイベントとはなんですか。

団体 サポセン音楽祭やチャリティー音楽祭、あとは市民劇場で、もしできたら、障害者や高齢者の方々を呼んでイベントをできればと考えています。

委員 ホームコンサートとありますが、どのようなものですか。

団体 施設に訪問したり、場所を借りてサロンコンサートをするものです。ピアノやキーボードで我々が伴奏をして、皆さんで合唱してもらうものです。

委員 既に活動実績があるようですが、拠点や練習場所、機材の置き場所はどのようにしているのでしょうか。

団体 機材置き場所は私(団体代表)の自宅です。

練習場所は市内の公共施設などです。

委員 活動の回数が大変多いのに、会員は8名ですが、いつも8人なのですか。1回

に2人とかなのでしょうか。

団体 ほとんど1回につき1、2人です。全員で活動することはほとんどないです。楽器演奏者が7人います。

会長 予算の食糧費にある景品とはどういったことでしょうか。

団体 音楽祭でお客さんを最後まで残したいので、最後にくじ引きをして景品を出そうと考えています。

委員 対象者に観光者とありますが、これはどういう意味ですか。

団体 矢切地区のお祭りに来た市外の人等を対象に考えています。

(3) 平成31年度市民活動助成事業プレゼンテーション（ステップアップ助成）

各団体が、パワーポイント等により、5分間のプレゼンテーションを行なった。

●質疑応答

笑劇で施設利用高齢者を元気にする事業

(団体名 浅間台笑劇研究部)

委員 中編程度の30分くらいの企画をやるとかがそろそろ欲しいなと思います。または若い方を入れるとか。この辺は考えていますか。

団体 ステップアップ助成への提案にあたっては審査員の意見を反映させたので、今回も取り入れさせていただきたいと思います。

委員 予算の支出項目に、ピンマイクを毎回借りるように書いていますが、どこで借りるのでしょうか。

団体 部員が持っているので、それを借ります。高齢者に向けて行うにはマイクが必要なためです。

委員 これは借りるのではなくて、団体として持つということは考えていないのですか。

団体 そのお金がないです。また、備品は助成金の対象にならず、借用なら対象経費になるということでこのようにしています。

委員 施設の謝金を予算化してしまっていますが、できるものなのでしょうか。

団体 なかなかできないです。活動を始めた当初は、珍しいということで施設から寄附をいただくことが多かったのですが、最近の施設はボランティア慣れをしていて、謝礼をくれるところが少ないです。なのでこの金額は無理がある金額なのかもしれませんが、これくらい頂けたらなというところです。

委員 有料にはしないのでしょうか。

団体 有料にすると著作権が絡んでくるので、基本的にはボランティアで無料でやりたいと考えています。

② 「松戸童謡作詞・作曲コンクールの開催」事業

(団体名 音・音楽フォーラム松戸)

委員 目標に、メディアを駆使したインフォメーションの拡大とありますが、具体的な方法を教えてください。

団体 最近立ち上げたホームページだったり、私自身が文化庁のプロジェクトに参加しており、文化庁と関わりがありますので、コンサートや音楽祭を継続してやっています。

委員 賞金を出す予定はないのでしょうか。モチベーションが大事だと思います。

団体 モチベーションの問題はあると思いますが、基本的なコンセプトは、良いものを集めたいということです。賞金も本当は出したいですが、どこから出すのという財政的な問題があります。第3、4回とやっていくうちに、企業から協賛金を集めることは考えていきたいですが、今のところは残念ながら無しということです。

作品を楽譜出版して、資料として積み上げていきたいとも考えています。

委員 楽譜出版した際の著作権の問題はどうなのでしょう。

団体 コンクールの募集の段階において、応募作品については、著作権が発生するが我々の会においては自由に使えるという一筆をもらい、了解を取ったうえで公募をします。

委員 どのように募集するのですか。楽譜なのか、作詞作曲はセットなのか、デモテープなのか。また、それに対してどのように審査するのですか。

団体 基本的に五線紙に書いてあればOKです。こちらで楽譜化できます。楽譜化する際の簡易伴奏は我々が無料で行います。

委員 作詞作曲はワンセットですか。

団体 要綱にワンセットと書いていませんが、今までに質問がメールで来て、逐一回答しています。

委員 こういった企画に、参加者は結構集まるものなのでしょう。

団体 金沢で大学の学生歌を企画して、全国から公募したことがあります。その際は50以上の作品が集まりました。賞金は30万円でしたのでそこもモチベーションの問題はあったと思いますが、逐一質問があれば丁寧に答えていきたいと思っています。

委員 応募作品50以上とありますが、どのような市民が応募するものなのでしょう。

団体 音大の学生とは限らないです。普通の方々を発掘したいと思っています。楽譜がきちんとかけなくても、作者の意図を汲み取って、こちらで楽譜化することも考えています。

会長 松戸市内から50作品を収集するというのでよいのでしょうか。

また、審査会の正当性、品格の点で、皆が納得する審査対応をどのように担保をとるのでしょうか。

団体 ブルガリアの作曲家に審査委員長をお願いする予定です。国際コンクールでも活躍しています。私自身も作曲家なので、子守唄や童謡の研究もしており、こういった取り組みの経験があります。もう2人の審査員も、作曲家と声楽家です。

会長 市内から50作品集めるということでよいのでしょうか。

団体 市内に限らず全国規模で募集します。

③ 生活圏に「お節介な友達作り」活動推進事業

(団体名 介護・認知症の家族と歩む会・松戸)

会長 来年度の活動は町会単位でという話がありましたが、スケジュールを見ると市民センター他とありますが、これが町会などでということですか。

団体 つい最近、町会の情報をもらえるということを市民自治課で聞きまして、他市では町会が共催、協賛というふうに行っているところもあるので、松戸市でもそうしたいと思っています。

会長 中身としては、どのあたりを町会と一緒にやるのでしょうか。

団体 認知症サポーター養成講座を町会単位でできないだろうかと思っています。全体の知識を町会単位で共有してもらおうのがねらいです。

委員 障害を持つ方や関連団体との連携とありますが、その具体的な方法を教えてください。

団体 今、目や耳の不自由な方との接点を模索しています。耳の聞こえない方には、要約筆記や骨伝導を用いることを計画しています。目の不自由な方には、映画を上映してその解説をして伝えるなど、認知症だとか地域の情報を提供していきたいと思います。

委員 市の担当課とも連携して進めているということで良いですか。

団体 松戸市は、認知症サポーター養成講座は市職員でないとできないとなっていますが、先日高齢者支援課から、我々団体の方で認知症サポーター養成講座をやってもよいという許可をもらったので、それを町会と結び付けてやっていきたいと考えています。

委員 オレンジリングも出せるのですね。

団体 はい。

会長 目標としては15人の仲間を見付けるということですが、これはワークショップや講座を全てくくってのことだと思いますが、その母体となる参加人数は延べ何人の参加を目論んでいますか。

団体 1回の講座で15人を目標としています。15人のメンバーをとというのは、その方が中心になって地域で動いてほしいということです。その方に10人、15人つくのではないかと思います。

介護育児法の話で、男性が90日休んでも、雇用主からもらえなくとも国が給料の70%払いますという法律が改正されていますので、これを地域でPRしたら、男性の方が興味を持ってもらえるのではないかと思います。これからの介護は女性に任せていても荷が重いのです、そういうことを地域でしゃべってくれる人を15人作りたいということです

④ 「子が作る健康料理」支援事業

(団体名 数値調理会)

委員 予算にある「シベリア蕨」とはなんですか。

団体 シベリア原産の蕨が長野県あたりで栽培されています。これは、パン食に必要なジャム作りに適しています。

委員 前は一人住まいの男性が対象で、今回は子どもが対象です。前者は必要に迫られています、子どもは興味が無いと来ないと思います。引き込む工夫はありますか。

団体 市内の子ども食堂に話して、食堂に我々が常連として参加することで周知してもらおうようにします。子ども食堂は一人親家庭の方が多いのでそこで話をつなごうと思っています。

委員 お子さんだけ参加したいという子もいると思いますが、そういった場合はどうしますか。

団体 小学生高学年以上なら、お子さんでも1人でも来られるかなと思います。

会長 事業目標で、調理教室参加者合計192名、うち有料参加者96名とありますが、有料参加者は具体的には、予算概要の事業収入93,000円とあるこの人たちを当て込んでいるのですか。

団体 そうです。広報で募集してたくさん来てもらって500円払ってもらおうと考えています。

会長 そもそもこの話に子どもたちが乗っかるかどうかという裏付けはありますか。

団体 お子さんに直接は聞いていません。子ども食堂の管理人に聞きました。中学生くらいの子は、子ども食堂に自分たちだけで来ているので、教えると言えば習うという子もいるんじゃないのとは聞いています。

委員 予算の支出の調理器具の配布の必要性はどういったところでしょうか。

団体 我々は発足当初から数字を大事にしてやってきました。タイマーや量りはどんなときにも使うものなので、子どもでもわかる様な簡単な原理に落とし込むために、このようなものを配布しようとしています。

⑤ 市民の権利擁護に関する啓蒙普及事業

(団体名 一般社団法人コスモス成年後見サポートセンター千葉県支部)

- 会 長 今回の提案の対象者は、被成年後見人でなく、一般市民ですか。
- 団 体 一般市民です。興味のある方、考えたことが無い方にも広く知ってもらいたいと思っています。
- 会 長 団体の設立目的である成年後見と、今回の提案の内容が一致しないようですが大丈夫ですか。
- 団 体 現在、市の高齢者支援課と市民の権利擁護を目的として、地域包括支援センターの職員の方々をサポートするための相談事業を無料で行うことを協定で結んでいます。なぜ協定の締結に至ったかという点、成年後見制度は認知症や知的障害等、判断能力が無くなった人の権利擁護ですが、趣旨としては身上監護や財産管理です。財産管理のサポート、身上監護のサポートを必要とされているのは判断能力の有無は関係ありません。ですので、そのような方でも我々に相談していいのかという相談が最近増えたとおり、団体内で協議して、そういった相談にも乗ろうということで、定款の中で成年後見人の有無にかかわらず広く市民の手助けになることを目的として設けています。このようなことで今回この事業の提案に至った次第です。
- 委 員 講演会の中身が、30～50分、ワークショップが60～80分、目標が、1会場で30人～50人、実施会場2、3か所というように、だいぶ幅があります。予算立てもきちんとする必要がありますので、はっきりとした目標を設定していただきたいと思いますがいかがでしょうか。
- 団 体 昨年度千葉県に出した書類でこのような書き方をしてしまっていたので、今回もこうしてしまいました。
市民センターは、100人規模の場所もあれば30人規模の会場もあります。会場の収容能力に左右されてしまいます。
- 委 員 だとしたら、3か所でだいたい200人とかいう書き方でお願いしたいです。
- 団 体 3会場で180人というのが現実的な数字だと思うので、訂正したいと思います。
- 委 員 別の組織に繋ぐということもお考えでしょうか。
- 団 体 考えています。お寺や司法書士の先生、宅建業者等、幅広く連携、ご紹介をしようと思っています。
- 委 員 今回相続をテーマにしていますが、一般的なイメージだと、相続は弁護士が必要かなと思うのですが、行政書士でよいのでしょうか。必要に応じて司法書士を招くとかでしょうか。
- 団 体 法律に関する問題の講師は、弁護士か司法書士を招こうと思っています。トラ

ブルになったとき、行政書士は触れられないという法律の制限があります。トラブルが無い平和な関係の場合には行政書士が対応できます。このような職業ごとの色々な違いがあることも知ってもらいたいです。そのあたりは意識した構成にするつもりです。行政書士がやる相続と司法書士がやる相続は中身が違うというお話はしていきます。

5 閉会